

光学区まちづくり推進委員会

委員長 花谷 忠厚

(問合せ先) 084-925-4258 (光交流館)

事業内容

- (1) コミュニティ育成事業（通年 - 清掃や祭りなど町内会単位のコミュニティづくり）
- (2) 高齢者活躍事業（8月27日 - 一斉清掃／11月19日、3月17日 - グラウンドゴルフ大会 ほか）
- (3) 運動推進事業（10月15日 - 学区民運動会 ほか）
- (4) 地域児童健全育成事業（通年 - 少年少女消防クラブ／7月2日 - 少年少女親善球技大会）
- (5) 地域安心・安全・防災推進事業（通年 - 児童・生徒の登下校の見守り活動／11月26日 - 避難訓練ほか）
- (6) 地域環境づくり事業（6月3日 - グリーンカーテン講座／12月3日 - 春の寄せ植え講習会 ほか）
- (7) 地域福祉活動事業（通年 - 福祉だより発行／社会奉仕ボランティア／いきいき運動教室／料理教室／10月28日 - 物々交換会 ほか）
- (8) 地域の活性化にむけた事業
 - 8月5日 - 盆踊り大会
 - 11月4日 - 初代草戸大橋欄干モニュメント除幕式
 - 1月7日 - とんど祭り (敬老会と共催)
 - 2月25日 - 健康ウォーキング大会
- (9) 光おはなし文庫（毎月第4土曜日／10月28日 - 左手のピアニストピアノコンサート）
- (10) 生涯学習講座（通年／9講座11回）
- (11) まちづくり推進委員会運営事業
（通年／会議運営、広報活動、これってどうなん？相談室）



光学区とんど祭り（1月7日）

成果

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、縮小されていた活動がほぼコロナ前に戻った1年であった。地域活動が停滞していた数年のブランクもあり、各事業や事業の準備などを負担に感じる状況もあったが、行事実施後の振り返りを毎回行い、意見を取り入れることで、準備作業の見直し・簡素化を図りながら、多くの人が集い、賑わう活動に繋がっていくことができた。

また、2022年9月まで90年間に亘って私たちの生活を支え続けた「初代草戸大橋」欄干のモニュメントを光小学校に設置し、除幕式を実施したことで今後も伝承される事業となった。

課題

- ① 「地域役員の高齢化が進み担い手が不足する」などの地域の課題解決にむけ、次世代への働きかけのために地域活動報告などの継続的な情報共有が必要である。
- ② 町内会加入率低下の影響から若年層（子ども、保護者）の行事への参加が少ないため、学校との連携や実施内容について子どもたちの意見を吸いあげるなど参加しやすい環境づくりが必要である。
- ③ 協働のまちづくりといいながら、町内会員及び学区民主団体が中心となった活動になっている。町内会未加入の方々をまちづくり事業にどのように取り込むかが課題である。
- ④ 福山市まちづくり補助金の世帯当たり金額のバラツキが大きく、行事規模に格差ができています。均等割り額の見直しが必要である。
- ⑤ デジタル化にむけてweb会議の実施を継続しているが、顔を見て話したいとの声もある。課題ではあるが時代の流れでもあり、ニーズもあるため継続していく。

課題解決にむけて

- ① ホームページや公式LINEの配信を頻回・情報の幅を広げることで、学区内の情報をより共有しやすくし、町内会加入・行事参加への促進に繋がりたい。誰一人取り残さず、ひとりでも多くの地域住民に参加していただくための創意工夫・検討（行事内容の簡素化・他事業合同実施）を続けていきたい。
- ② 町内会加入者と未加入者とが、分け隔てなくまちづくりに取り組んでいる他学区・他地区があれば、紹介いただき研修に行きノウハウを学びたい。
- ③ 福山市まちづくり補助金の見直しをお願いしたい。

『初代草戸大橋欄干モニュメント除幕式』（草戸大橋開通記念事業）

昨年度は新たな「草戸大橋」の開通。
今年度は今までお世話になった「草戸大橋」の欄干移設。
私たちの生活から切り離すことのできない大切な「草戸大橋」のイベントを開催し、後世に語り継ぎたいと多くの方が駆けつけてくださいました。



『健康ウォーキング大会』で光学区を知ろう！

「地域の活性化にむけた事業」で、今年度新たに「健康ウォーキング大会」を計画しました。
多くの史跡に囲まれた光学区ならではのコースで、住んでいるまちの史跡を知り、子どもから高齢者まで楽しく世代間交流を図る…はずでしたが、残念ながら当日は雨となってしまいました。
ウォーキングはできませんでしたが、たくさんの方に集まっていただき、体育館でしっかり身体を動かしました。来年度は、ウォーキング！楽しみたいと思います。



ゆっくり・早く・デジタル化！

コロナ渦の2021年度に「光学区まちづくりラボ（ホームページ）」の運営をスタートし、現在は公式LINEも週1回を目標に配信しています。まだまだ公式LINEの登録者数は少ないですが、並行して「スマホ教室」を開催したり、紙面でのお知らせも残しつつ“デジタルが苦手”という人にも寄り添いながらデジタル化を進めています。